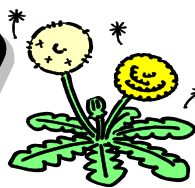


KAS

Cotton こっとな Up あっぷ

Vol. 96



9月からあたらしい仕事に取り組んでいます！
三浦半島ならではの！！燻製にした地元の魚を店頭に出せるよう、
真空パックをして、シールを貼る仕事です。いずれ紙面で詳しく・・・

目 次

- | | |
|---|----------|
| ・「W・D・S・N 19 (Watage Daily Support News)」 | |
| ～ Tシャツを畳もう！！編 | 《2～3ページ》 |
| ・ソーシャルワーク実習を終えて ～実習生より～ | 《4ページ》 |
| ・新任職員紹介 | 《5ページ》 |
| ・横須賀たんぽぽの郷 15周年記念講演会のお知らせ | 《6ページ》 |
| ・おい！ごとうくん | 《7ページ》 |
| ・後援会のご案内 | 《8ページ》 |
| ・ボランティアさん☆大募集中！！ | 《8ページ》 |
| ・編集後記（編集部） | 《8ページ》 |

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会
代表 内田 照雄 〒243-0035 厚木市愛甲910-1コープ野村6-109
(毎月1回15日発行) 購読料1部 50円

「W・D・S・N 19(Watage Daily Support News)」

～Tシャツを畳もう！！編～」

竹内 祐輝

私たちの支援の基本となる考え方は『その人にとって必要な支援を提供する』というものです。そのため、同じ目標を持っていても、そこに辿り着くまでの支援のプロセスは個々によって異なります。NさんとIさんは、『Tシャツを畳む』という同じ活動に取り組みました。しかし、二人ともそれぞれの特徴に合わせ、異なる支援を提供しました。今回ご紹介するのは、お二人の違った強み、得意なことを活かした支援です。

★Nさんへの支援

Nさんが初めてTシャツ畳みに取り組んだ際、Tシャツを本人の前に広げ、「畳んでください」と口頭で伝えると、職員の顔をじっと見て、行動が止まってしまいました。ご本人は、もしかすると「どうしたら良いのだろうか」と考えていたのかもしれません。

Nさんは文章や写真から活動方法を理解することが得意でした。普段から作業をする前に文章で書かれた手順書を確認します。そうすることで、『自分が何をするのか』『どうやって作業をするのか』を理解しています。Tシャツ畳みの活動でも、Nさんが活動方法を最も理解しやすいように、写真と文章で書かれた手順書を用意して提供しました。

Nさんに手順書を手渡し、活動に再挑戦しました。手順書通りの順番に畳んでいくことが出来ましたが、記載された写真とは違う折り目になっていました。つまり、『服の腕や裾の部分はどこに折るのか』という点が正



ご本人にお渡しした手順書の写真です。

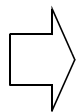
左から順番に写真を見ながら畳んでいきます。

『腕の部分を折る』といったような文章が添えられています。

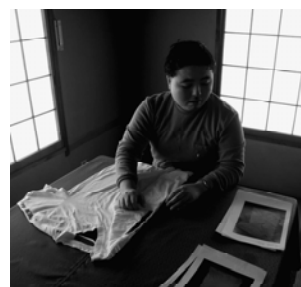
確に伝えることが出来ていませんでした。折る箇所が目で見えてわかるように支援する必要があると考えました。そこで、Tシャツに緑や赤、青といった異なる色テープを折る箇所に合わせて2枚貼っていき、『同じテープの色同士を合わせることで、畳むことができる』ようにしました。また手順書にも、どの色を合わせるかを記載しました。すると、手順書を見つつ、どの色を合わせるか判断し、写真の通りに畳むことが出来るようになりました。

もちろん、色テープがTシャツに付いていては、実際の生活で活用することが出来ませんので、畳み方を覚えていく段階で色テープは少しずつ外していく予定です。

ご本人に上手に畳むことが出来たことを伝えると、職員の顔を見て「できた」と言いました。活動を開始した時には不安を感じているような表情でしたが、自分で畳むことができた時には自信に満ちた表情になっていました。



白黒のため色がわかりづらいと思いますが、①の線と左袖の裏側にある②の線を合わせることで、畳む事ができます。①と②の線は同じ緑色のテープが貼ってあります。



Nさんが活動に取り組む様子です。
手順書を見ながら自立して畳んでいます。

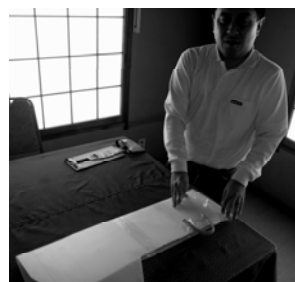
★Iさんへの支援

Iさんが初めてTシャツ畳みの活動に取り組んだ際は、Tシャツ拵げて、ご本人に「畳んでください」とだけ口頭で伝えました。すると、Tシャツをくるくると丸めて、職員に手渡しました。ただIさんの場合は腕の部分折った状態で手渡すと、三つ折りにきれいに折ることが出来ました。そこで、こういった支援を行えば、Iさんが自立して腕の部分を折ることが出来るか、という点を考えました。

Iさんの得意なことは、覚えた行動を確実に継続することが出来るという点です。ケープルから銅線を取り出す作業や箱の中敷きを折っていく作業など、ふあずで日中取り組んでいる受注作業は一度作業方法を覚えると、間違いや失敗をすることはほとんどありません。

そこで、ご本人が覚えやすいように、畳む手順を簡単にして提供しようと考えました。Tシャツと同じ大きさ、形の台の道具を作成しました。台に折り目を入れ、Tシャツを乗せた状態で台ごと折ることで、畳めるようにしました。現在は職員とともに活動を繰り返し、練習中です。段々と、道具の使い方を覚え、きれいに畳むことができるようになってきました。

畳み終わった後、IさんはTシャツを職員に手渡しました。くるくると丸めていただけの時と違い、『きれいに畳むことが出来ました』と職員に伝えているようでした。



Yさんが活動している様子です。両腕、胴体部分を道具を使って折った後はご本人が自立して三つ折りにします。

★二人の支援を行って

今回、個々に合わせた支援を提供し、お二人とも練習中ながらもTシャツを畳むことが出来ました。お二人とも、活動を開始した時と目標を達成した時では、自分の力で畳むことが出来るようになったという、達成感を感じている表情になっていました。

人間は誰でも、得意、不得意がありますので、個々の特性を評価し、また尊重することが大事だと考えています。彼らの力を信頼し、一人一人の個性に合わせたオンリーワンの支援を行っていきたいと思います。

ソーシャルワーク実習を終えて

今回約一カ月間にわたり、わたげで実習させていただいた神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科3年の長島健太と申します。

今まで大学での講義を通じて福祉について学んだり、ボランティア等で実際に障害を持った方々と触れ合ったりしてきましたが、現場実習は初めてのことであり、自閉症の方々とこれだけ長い期間触れ合うことも初めてのことで、最初は正直なところ期待よりも不安が大きかったことを覚えています。しかし、それは日を追うごとに変わっていきました。職員の方々も丁寧にそして温かく教えてくださり、利用者の方々も迎え入れてくれているように感じる事ができたからです。そんな環境の中で学べたことを感謝しています。



取り組み準備中の一コマ

私は実習させていただくにあたり、自閉症についての講義を受けたり T E A C C H について学んだりしていました。その中でわたげは自閉症に特化した施設であり、自閉症の方々に対してどのような支援を行っているのかということを実習の目的にしていました。しかし、実際に実習をさせていただくうちに「自閉症だから」ということではなく、一人の人として対峙して支援していることに気づきました。当たり前のことと言われればそうなのかもしれませんが、私は今まで学んできた中で「自閉症だから」や「障害者だから」ということが先にあって、「できない」ことに注意が向いて、その「できない」ことを理解してあげたり、社会に理解してもらうことが支援なのではないかと考えていました。というか、そう考えていたことを逆に気づかせてもらえた程にわたげでは利用者の「できる」こと、あるいはその可能性を信じてそれを活かすためにはどうすればいいのかという支援が行われていました。わたげの利用者は自閉症を伴う方々ですが、誰一人として同じ人間はいない。それは私たちと変わらない。そんな当たり前のことも今まで私は自閉症という言葉一つでまとめて考えていたことに気づきました。もちろん基本的な知識として自閉症について知ることや支援方法を学ぶことは必要なことだと思いますが、それもあくまで手段の一つでしかなく、目の前のその人の気持ちや可能性に歩み寄って、その人にあった支援をしていくからこそ「できる」ことに対する支援ができるのだと今は考えられています。

そして、そのことを支えるものとして客観的事実があることを学びました。こちらからの一方的な想像や推測ではなく、事実を集めて照らし合わせることで少しでも本人の気持ちを汲み取っていくことで利用者に寄り添った支援ができるのだとも思っています。

他にも新しい仕事の現場と一緒に体験させていただいたり、銭湯の清掃にも一緒に行かせていただいたり、ケアホームに行かせていただいたりとわたげ内での見守りだけでなくいろいろな経験をさせていただきました。それは職員の方々はもちろんのこと、利用者の方々にも協力していただいて、受け入れていただいたからこそできたことであり本当に有り難く思っています。今はわたげで実習させていただけたことに感謝するとともに学生としての幸せを感じています。今後も何か関わらせていただけるチャンスがあればお願いしたいと思っています。ありがとうございました。



実習生を受け入れることは、私達職員にとっても、とても勉強になります。本当にお疲れ様でした。今後もよろしくお願いします。



はじめまして。9月1日より勤めさせていただいている、東川 奏（ひがしかわ そう）と申します。年齢は27歳です。出身は三重県の鳥羽市という所です。近くには伊勢神宮があります。長野県で学生生活を送り、そのまま長野で就職し、2007年の12月に横須賀にやってきました。2008年に結婚し、今では4人の父親になりました。休日には、子どもたちと散歩にいたりしています。休日に雨が降っていると、今年3歳になる男の子に、はたらくくるまのDVDをエンドレスで見せられ、あの歌が頭から離れません（笑）。その子はトミカが大好きで、（一般車に興味はなく、工事車両や、救急車・消防車が大好き）買物に行くときはおもちゃ売り場を避けています。こんな家族とともに毎日楽しく暮らしています。福祉関係の職場は初めてで、自閉症の方達と関わらせて頂くのも初めてですが、利用者さんの笑顔や、先輩職員さんに支えられ、毎日充実しています。これからは、利用者の皆さん、先輩職員さんに少しでも貢献できる様に、これからの日々を大切にしていきます。最後に、

今年は3月11日に東日本大震災が起こり、そして9月には、台風による豪雨でたくさんの犠牲者がでました。子どもを持つ親として、決して人ごとではありません。被災地に1日でも早く日常が戻ることを願い、また、人へ暖かく手が差し延べる事が出来る支援員になりたいと思います。これからよろしくお願いします。



10月から、横須賀たんぽぽの郷 わたげで支援員として働かせていただいている今氏照樹（いまうじ てるき）と申します。

昨年、福祉の専門学校に通い、今年、社会福祉士の資格を取りました。学校の実習にて生活介護の事業所で勉強し、利用者様と生活している中で、一緒に新しい事にチャレンジしていけたらな、何か自分なりに人と人とのふれあいで感じた事をうまく発揮できたらなと思い、支援員として働きたいと思いました。福祉の仕事は初めてではありますが、一日一日を糧にして、利用者様と一緒に自分も高めていきたいです。

9月の終わりに久里浜に引っ越しました。それまでは東京の下町に住んでいました。山と海があり新鮮です。雨上がりの日、わたげへの通勤路で、草の匂いがしてきたり、落ち葉を踏みながら歩いていると、自然の中にいることを実感しました。

三浦海岸の方角に見える山からは、どんな景色が見えるのかと気になります。港や海岸線、小さく見えるタンカーなど。想像してしまいます。近いうちに確かめに登ってみたいと思います。

趣味が登山でアメリカやカナダへ登山に行った経験があります。雪の山や岩壁も登っていました。日の出や雲海など綺麗な景色を見たり、達成感があります。一方、着の身、着のまま、寒い中に一昼夜過ごさなくてはならない時もあります。その中で笑い声や温かい飲み物が、普段では何気ない事でも、安心感や勇気が湧く事があります。いつもニコニコ、前向きにをモットーに働きたいです。よろしくお願いします。

社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷 15周年記念講演会

自閉症を伴うひとの暮らしを ささえるということ

講師：社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷

知的障害者通所更生施設 わたげ施設長 後藤 博行 氏

◇実践報告◇ 日中活動について 職員 和地まどか 氏

◇実践報告◇ ケアホームについて 職員 酒井 真俊 氏

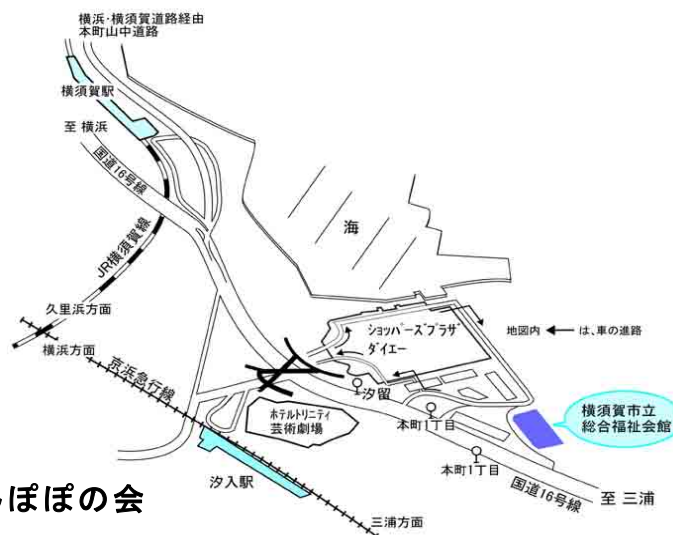
2011年11月で設立15周年を迎える事を記念して、講演会を開催します。

当法人は現在、通所更生施設「わたげ」、分場「ふあず」、ケアホーム「こっとなはうす」を運営しております。これまでの実践報告を中心に、自閉症の人たちの暮らしを支える事について考えてみたいと思います。

大勢の方のご来場をお待ちしています。

日時：2011年11月13日(日) 10:00～12:00 (開場9:30)

会場：横須賀市立総合福祉会館
5階 ホール
京急汐入駅下車徒歩5分
JR横須賀駅下車 徒歩15分
ショッパーズプラザダイエー横
横須賀市本町2-1
TEL:046-821-1300



参加費：無料

主催：横須賀地区自閉症児・者親の会 たんぽぽの会

共催：社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷

後援：横須賀市 横須賀市教育委員会 横須賀市社会福祉協議会
(予定)：三浦市 三浦市教育委員会 三浦市社会福祉協議会

問合先：たんぽぽの会 会長 浅羽 昭子 TEL:046-824-7024

『お～い、ごとくーん！！』

3～4ヶ月前のことだったと思うのですが、NHKの日曜美術館という番組で、『記憶に辿りつく絵画～亡き人を描く画家～』というタイトルで、画家の諏訪敦を取り上げた番組がありました。諏訪敦氏は、独自の写実表現で注目されている画家で、単に写真や実物を見てその対象を描こうとするのではなく、徹底した取材を重ね対象となる人物と向き合った上で、人物の内面にまで迫ろうとして描くのである。自ずと、観る者に伝わる印象が他の写実主義の絵画とはまったく違うのです。

その番組は、南米のボリビア・ウユニ塩湖で交通事故に遭い亡くなった娘を、絵によって蘇らせて欲しいという依頼を、諏訪氏が受けたシーンから始まり、画家と依頼した家族の6ヶ月にわたる取材を通して、親の思いと亡き人と向き合う画家の悩みや葛藤を描いていました。私の記憶では、諏訪氏は会ったことのない人を描くというのは、初めてであったと思います。それでも彼は、わずかな手がかりを集めながら、対象の内面にまで迫っていかようとするのです。その手法は、家族や友人に会って娘さんの話を聞き、身につけていた衣服に触れ、母親や父親の頭や顔などに直接触れることで、その特徴を譲り受けているであろう娘の顔立ちのイメージを鮮明につかもうとしたり、更には、写真から全身のサイズまで割り出し、描こうとする絵の重要なポイントとなる右腕実物大の義手を作製して、実際の手の感触までイメージしようとするなど、内面についても身体的特徴についても徹底した取材をしていることに驚くと共に、画家の作品に向き合う執念を感じました。

それでもなお、諏訪氏は悩むのです。父親が度々口にする、“快活な娘を蘇らせて欲しい”という言葉に。自らがとらえた印象で描くのか、父親の期待に添って描くのか。そこから、子どもを亡くした親同士が語り合う集まりを訪れ、親の心境を取材する中で、人には多面性があるのだから、自分のとらえた印象で描こうと考えるのである。これは、思い出のような遠い印象を蘇らそうとして描くのではなく、一人ひとりが抱えている、亡き娘さんに対する鮮明な記憶にたどり着こうとする苦悩であったように感じました。完成した絵画を見て「娘だ」と父親が言ったシーンが印象的でした。

この番組を見ながら、私が感じたことは、自分はどのくらい支援をする利用者と向き合えているのだろうかということです。一人ひとりの思いにどのくらいたどり着けているのだろうか頼りない気持ちも感じました。また、私たちの支援と画家の諏訪氏と共通する部分も感じ、日々の支援を通して、アセスメントを行ったり、事実に基づく記録を積み重ねながら、1人の利用者の内面にまで何とかたどり着きたいと考えていることのように感じました。時には家族の思いに寄り添って支援するのか、本人のアセスメントから感じ取ったことを頼りに支援をすべきか、悩んだりもするのです。まだまだ、未熟な集団ですから、私たちが利用者一人ひとりの思いにたどり着いているなどと、自信を持って言うには、あまりにも心許ない状況です。しかしながら、自信がないながらも、地道に、日々丁寧に利用者に向き合い、記録を取りながら、個々の利用者の思いに少しでも寄り添えるように、研鑽を重ねて行きたいと思います。

11月で、当法人ができて15周年を迎えます。これまで、支えてくださった多くの方々に深く感謝致します。そして、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

わたげ 施設長 後藤博行

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、ともに生きる仲間として、地域で生活していくために必要な援助に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員 1口	3,000円
	団体会員 1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

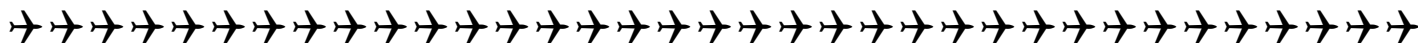


ボランティアさん 募集中

わたげ・わたげ分場・こっとなはうすで
自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？
作業の検品、余暇活動の支援、清掃等
お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:わち)
E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp
わたげ分場 電話:046-888-3961 (担当:しょうじ)
E-mail: adz13970@ams.odn.ne.jp
こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:とみた)
E-mail: adu88990@ams.odn.ne.jp



編集後記～編集部～

先日、パラグライダーの1日体験というのをしてきました。パラグライダーは、風の強さだけでなく風向きも重要だそうで、気持ちの良い秋空の下、風を待ちながらのんびり過ごす・・・はあ～贅沢。反面、1日しかチャンスのない身には、飛べるのかな飛べないのかなと見通しが持てないことに不安な気持ちも。やがては、はっきりしてほしいな～と軽いいらだち・・・。見通しが持てないってつらい！

今でこそ少なくなりましたが、自閉症を伴う人は、わがままだとか我慢が足りないなんて言われることがありました。私は逆だと思います。見通しが持てた時、予定がはっきりした時の度量の大きさ、潔さには、いつも頭が下がります。短気な私も見習わなければ・・・。

しょうじ

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21
TEL:046-844-0038 / FAX: 046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp